

都市でも深刻な高齢化

先般、自宅のある東京の西東京市でも今季初の本格的な雪となり、10センチほどの積雪があった。水分を多く含んだ重い雪で、雪かきはけっこうな重労働であった。仕事で出かける前に可能なら、車で車を通る道路の雪かきをしたもの、しばらく足元が悪い状態を余儀なくされた。

この雪かきをしながらあらためて痛感したのが、自宅周辺はほとんどがお年寄りで、雪かきできる人はごく限られているということであった。以前であれば何人もが雪かきする風景があったが、誰も見えない。農村の高齢化についてはよく指摘されるが、都市における高齢化も深刻であり、自治会の役員会で話してみると、独居老人の家もけっこう多いようだ。

みんなの居場所

話は一転するが、自宅から自転車15分ほどの同じ西東京市内に「仙人の家」がある。これは自宅

を解放しての「地域のみなさんの居場所・コミュニティカフェ」であると同時に、介護をしている人がホッとひと息つくための「ケアラーズカフェ」、認知症の人やその家族も楽しめる「オレンジカフェ」でもある。

「房」「懐メロ・クラブ」、歌声喫茶、食事会、健康麻雀等々が開かれていた。また土日は貸しスペースとして提供されており、演奏会等に使われている。ここにはお年寄りがひっきりなしに出入りしているだけでなく、

時流を読む

小さな協同、あたららしい協同

農的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

月・火・木・金曜日の10時から16時まで誰でも出入り自由で、「お茶を飲んでくつろぐ」ことができ、定例で勉強&おはなし会である「閑人（カンジン）会」、市民の情報交換をねらいとする「市民力の会」、「比留間さんの手作り工

通りがかりの主婦がのぞき込んだり、仕事の合間にここで休憩する外交員もいたりなど、まさに地域の居場所となっている。  
**地域の力を引き出す**  
この「仙人の家」は西東京市の

「みんなの居場所『地域の縁側プロジェクト』」に登録している協力団体の一つで、西東京市にはこうした団体等が昨年末で16ある。そしてこれら団体等は西東京市の「ほっとネット推進員」とも重複しながら「ほっとネットステーション」を支えている。

「ほっとネットステーション」は、行政に依存するのではなく、市民が持つ専門性・特技等を生かして市民自らが地域の課題解決に取り組んでいく仕組みで、「ほっとネット推進員」は260名に達している。まだ一部の対応にとどまってはいるが、この人数は地域の力を象徴しているといえる。

財政がひっ迫する中、西東京市をはじめ都市でも地域の力で地域の課題を解決していくトライアルが始められている。まさに小さな協同、あたららしい協同への挑戦である。人それぞれができることを、地域で積み上げていく。ここにか地域再生のカギはない。